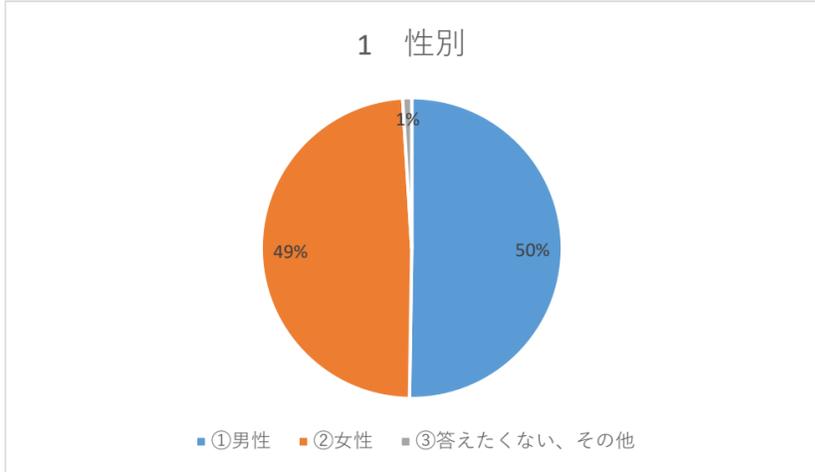


# 飯島町男女共同参画プラン見直しのための実態調査

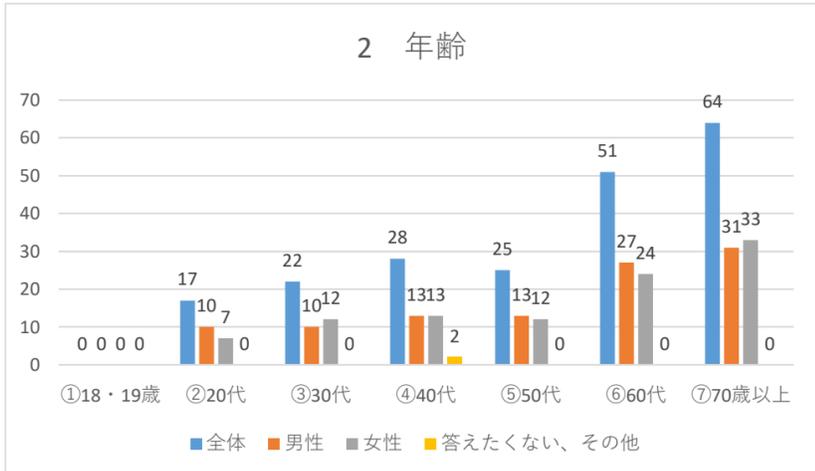
合計207人（男性104人・女性101人・答えたくない、その他2人） R6.1.30現在

調査対象 町民600人（満18歳以上の住民の方）無作為抽出  
 調査期間 令和5年12月26日（火）～令和6年1月15日（月）  
 回収率 34.5%（回収数207人/600人）



問1 あなたの性別  
 ① 男性 ② 女性 ③答えたくない、その他

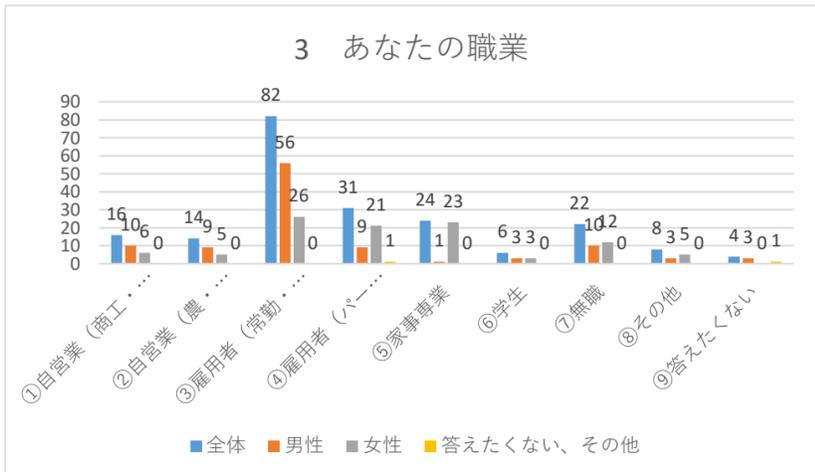
・男性（104人）と女性（101人）の割合はほぼ半数。



問2 あなたの年齢

- ① 18・19歳
- ② 20代
- ③ 30代
- ④ 40代
- ⑤ 50代
- ⑥ 60代
- ⑦ 70歳以上

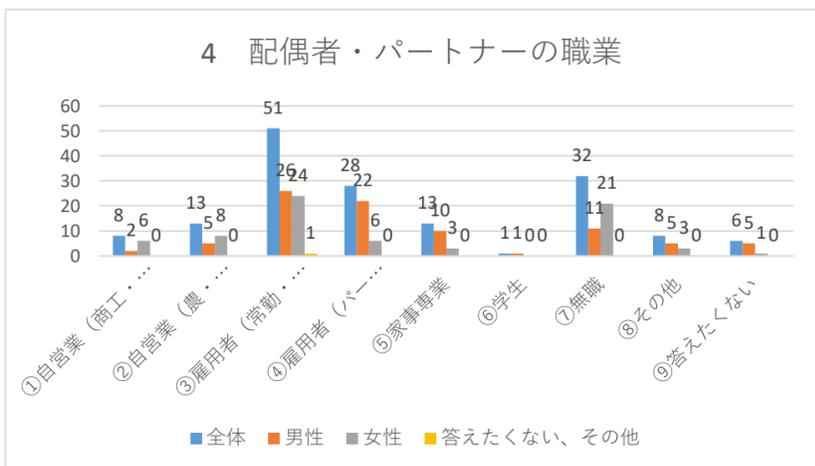
・60代、70歳以上の割合が合わせて過半数を超える調査結果である。18・19歳からは回答が得られなかった。



問3 あなたのご職業

- ① 自営業（商工・サービス業、自由業）
- ② 自営業（農・林・漁業）
- ③ 雇用者※（常勤・フルタイム）
- ④ 雇用者※（パート・アルバイト）
- ⑤ 家事専業
- ⑥ 学生
- ⑦ 無職
- ⑧ その他（具体的に ）
- ⑨ 答えたくない

・問3、問4とも雇用者（常勤・フルタイム）の割合が大きい



問4 配偶者・パートナーのご職業（配偶者・パートナーのいる方にお尋ねします）

- ① 自営業（商工・サービス業、自由業）
- ② 自営業（農・林・漁業）
- ③ 雇用者※（常勤・フルタイム）
- ④ 雇用者※（パート・アルバイト）
- ⑤ 家事専業
- ⑥ 学生
- ⑦ 無職
- ⑧ その他（具体的に ）
- ⑨ 答えたくない

問5 あなたは、次の言葉やことがらについて、ご存知ですか。あるいは、聞いたことがありますか。A～Gそれぞれにつき、該当する番号に○を付けてください。

(各項目について)

- ① 知っている
- ② 聞いたことがある
- ③ 知らない

【A 男女共同参画社会】

・「知っている」「聞いたことがある」町民がおよそ9割。

【B ジェンダー】

・A同様に多くの町民が「知っている」「聞いたことがある」。

【C ワーク・ライフ・バランス】

・A,Bに比べ若干「知っている」「聞いたことがある」が低い。

【D 男女雇用機会均等法】

・「知っている」「聞いたことがある」町民が多い。

【E DV（配偶者からの暴力）】

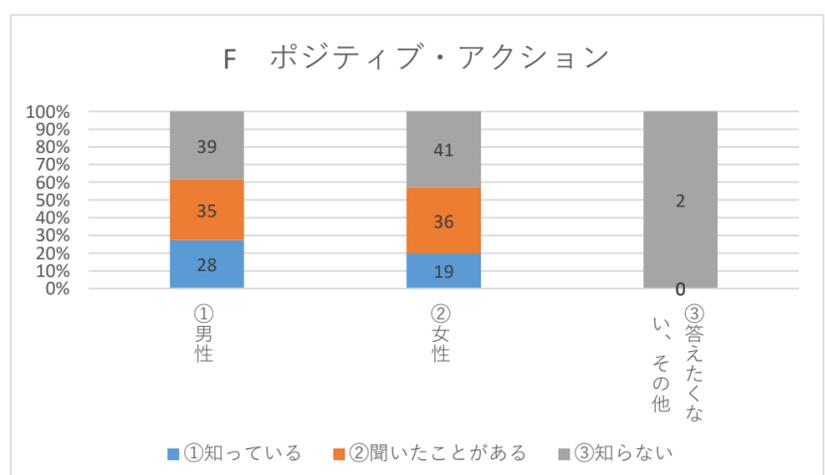
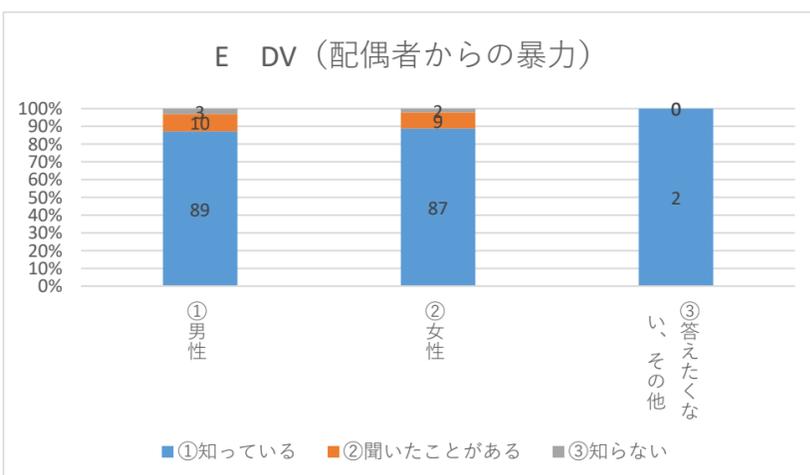
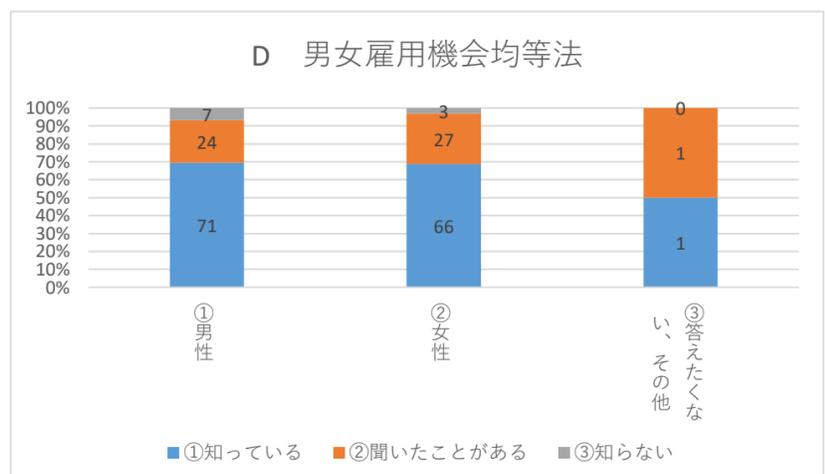
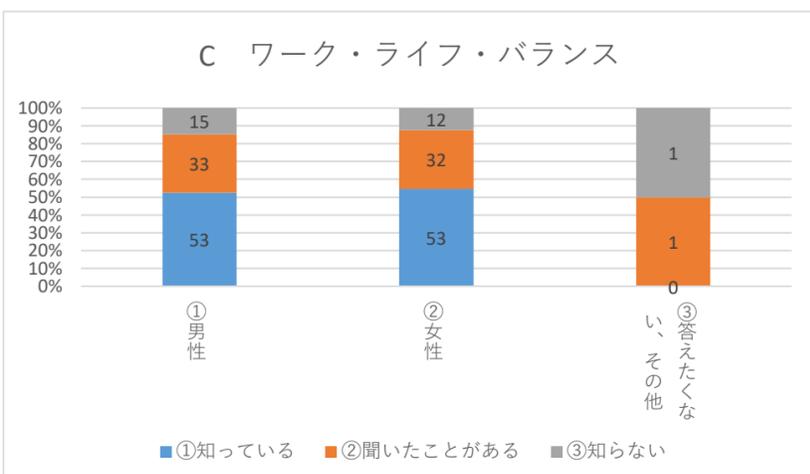
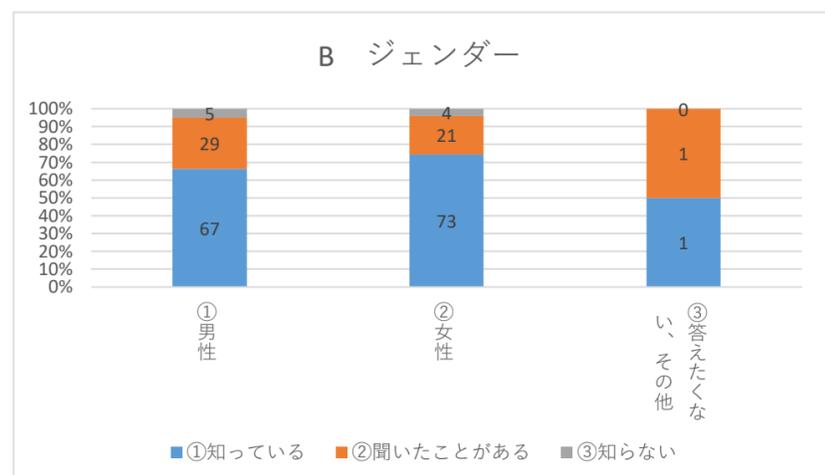
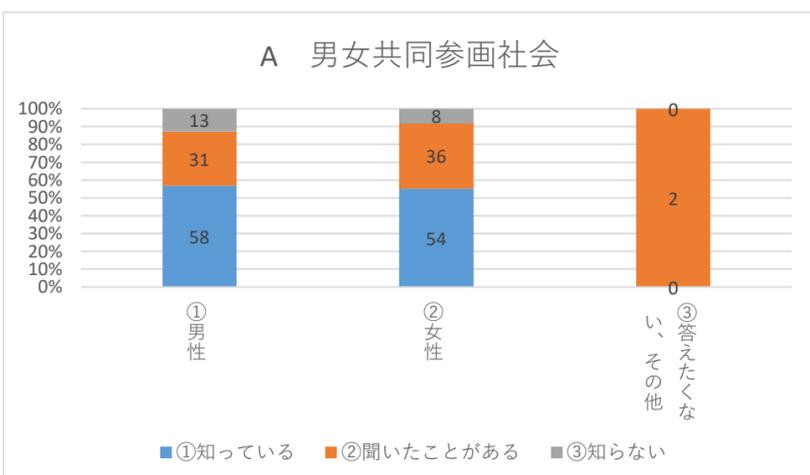
・「知っている」「聞いたことがある」町民が多い。

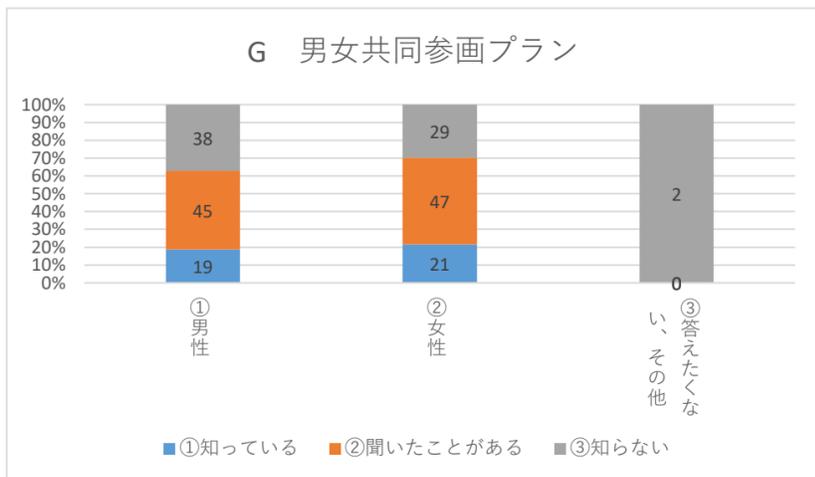
【F ポジティブ・アクション】

・他の言葉に比べて、「知っている」「聞いたことがある」町民の割合が60%まで下がる。

【G 男女共同参画プラン】

・「知っている」「聞いたことがある」町民の割合が60%程度。プランの周知や男女共同参画について町民に知ってもらう取り組みを、自治会長会や各自治会の集まりの場、企業への啓発活動など様々な機会に合わせてさらに行う必要がある。

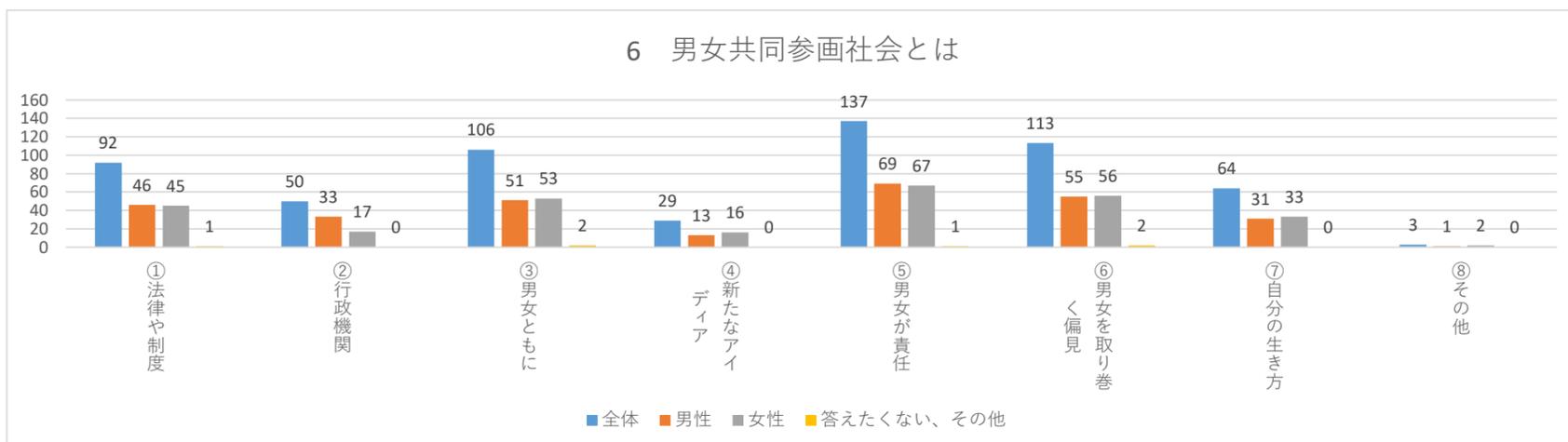




問6 あなたが考える「男女共同参画社会」は、どのような社会ですか。次の中から、あなたのお考えに近いものを、3つまで選んでください。

- ① 法律や制度の上で男女の差がない社会
- ② 行政機関の重要な役職や企業の管理職などに一定の割合で女性が就任している社会
- ③ 男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会
- ④ 新たなアイデアや色々な考え方が活かされる社会
- ⑤ 男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を發揮することができる社会
- ⑥ 男女を取り巻く偏見や昔からの決まり、慣習、しきたりなどが解消された社会
- ⑦ 自分の生き方を自身で設計・実現でき、一人ひとりが自立した豊かで活力のある社会
- ⑧ その他（具体的に）

・「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を發揮することができる社会」が最も多く、「新たなアイデアや色々な考え方が活かされる社会」が最も少ない。



問7 あなたは、次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。A～Hそれぞれにつき、あなたのお考えに近いと思う番号に○を付けてください。

(各項目について)

- ① 男性の方が優遇されている
- ② どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ③ 男女平等である
- ④ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ⑤ 女性の方が優遇されている
- ⑥ わからない

【A 家庭生活】

・「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と考える町民が全体で6割。男性より、女性の方がややその割合が大きい。

【B 学校教育】

・「男女平等である」と考える町民が過半数を超える。「わからない」と答えた48人中30人は60代以上。

【C 職場】

・「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と考える町民が全体で6割。女性より、男性の方がややその割合が大きい。

【D 地域活動の場】

・「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と考える町民が全体で5割程度。男性の方がその割合が大きい。

【E 政治の場】

・「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と考える町民が全体の8割程度。男性も女性もともに割合が大きい。

【F 法律や制度上】

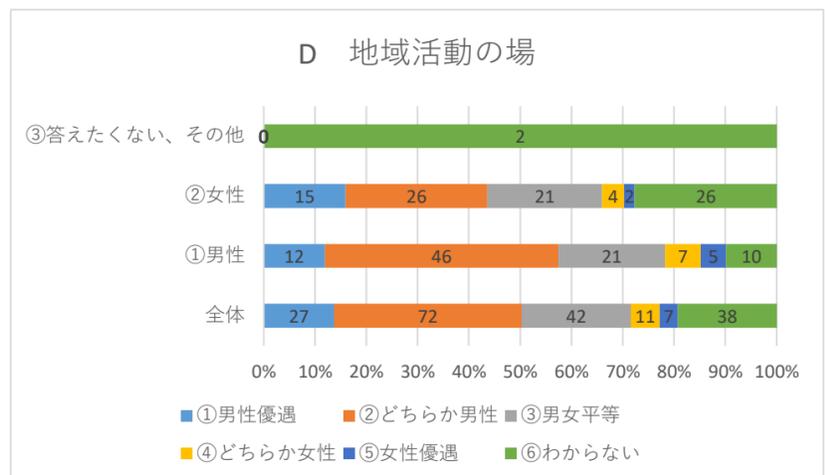
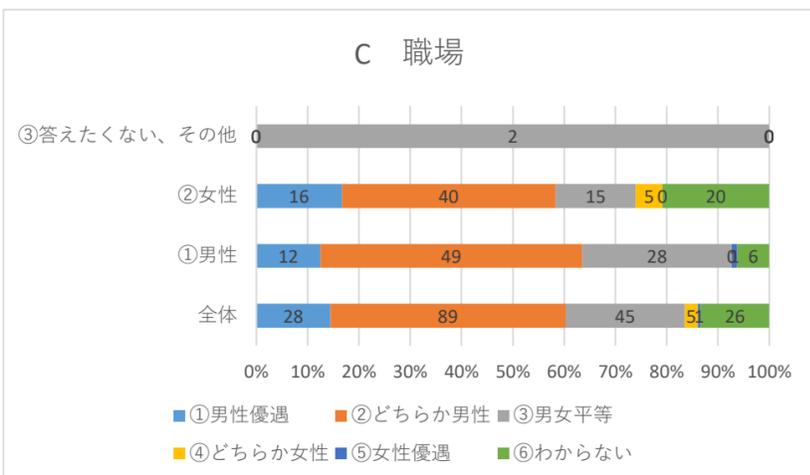
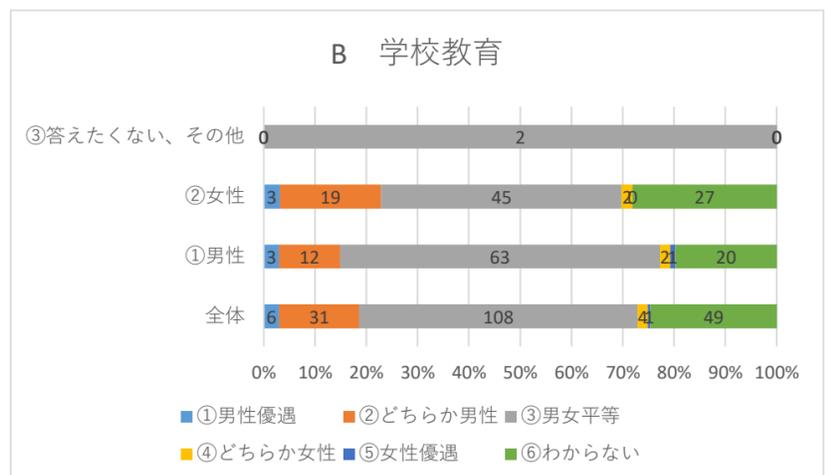
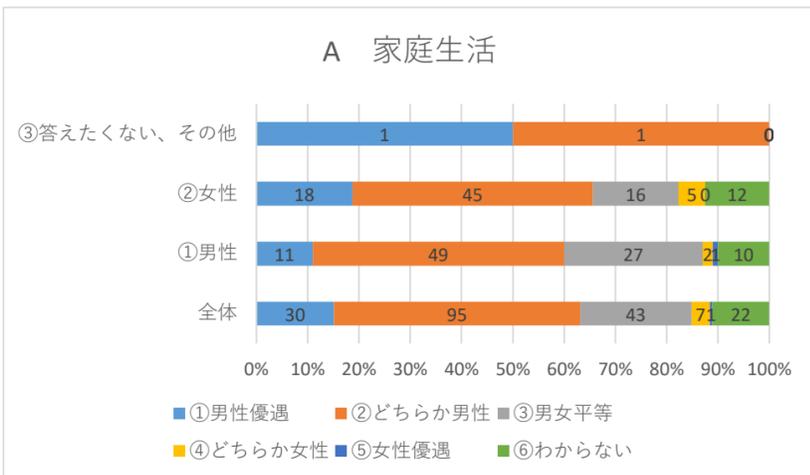
・「女性の方が優遇されている」と考える町民が全体の約1%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と考える町民が全体の約2.5%。

【G 社会通念・慣習・しきたり】

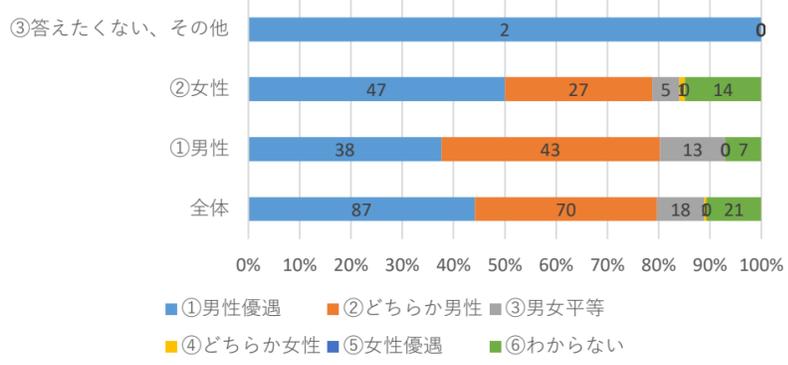
・「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と考える町民が全体で8割弱。「女性の方が優遇されている」と考える町民は0人。

【H 社会全体として】

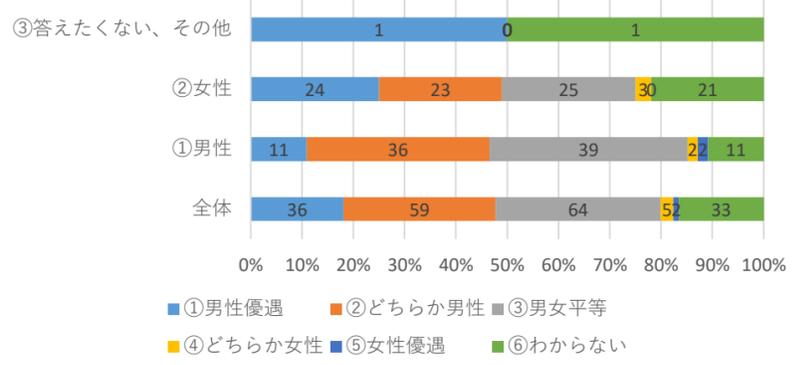
・社会全体として、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と考える町民の割合が大きい。



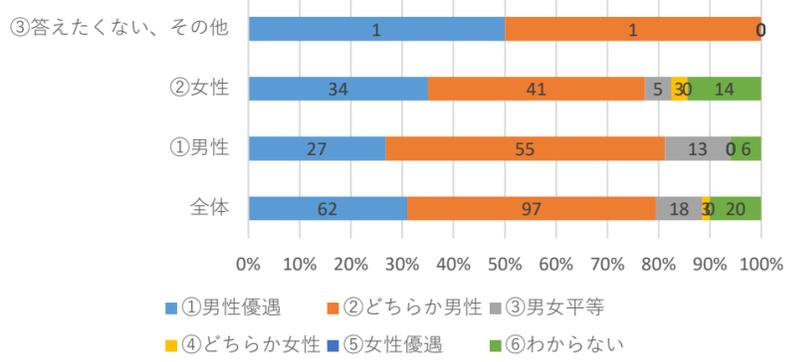
### E 政治の場



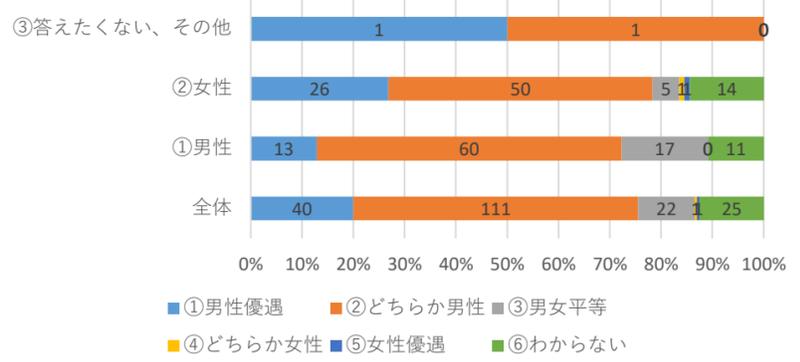
### F 法律や制度上



### G 社会通念・慣習・しきたり



### H 社会全体として



問8 あなたは、次のような考え方について、どう思いますか。A～Hそれぞれについて、あなたのお考えに近いと思う番号に○を付けてください。  
(各項目について)

- ① そう思う
- ② どちらかといえばそう思う
- ③ どちらかといえばそう思わない
- ④ そう思わない

【A「男は仕事、女は家庭」と、性別によって役割を固定する】

・町民の半数以上は「そう思わない」と考えている。

【B男性は外の仕事、女性は家事・子育て・介護に向いている】

・「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と考えている町民の割合がおおよそ60%。Aの質問に比べると「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合がおおよそ40%とほぼ2倍となる。特に男性の割合は半数を超える。

【C男女とも仕事を持った方がよい】

・おおよそ9割が仕事を持った方がよいと思っている。

【D家事・子育て・介護は男女が協力してやるべきだ】

・9割以上が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と考えているが、「そう思う」の割合が男性より女性の方が大きい。

【E子どものしつけや教育は、母親の責任である】

・「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の割合が9割を超える。女性の「そう思う」の割合が男性の「そう思う」の割合よりも大きい。

【F子どもが幼いうちは、女性は家庭にいた方がよい】

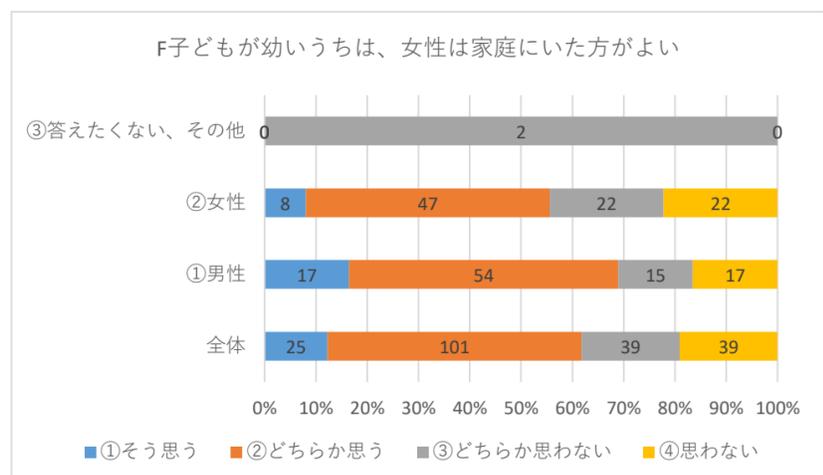
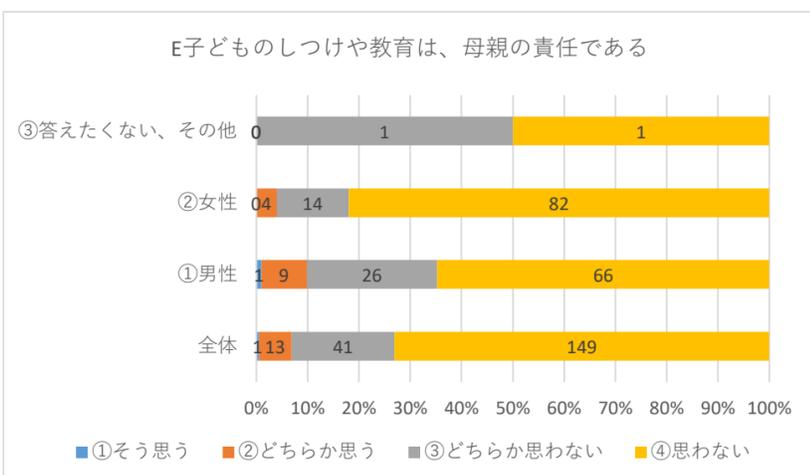
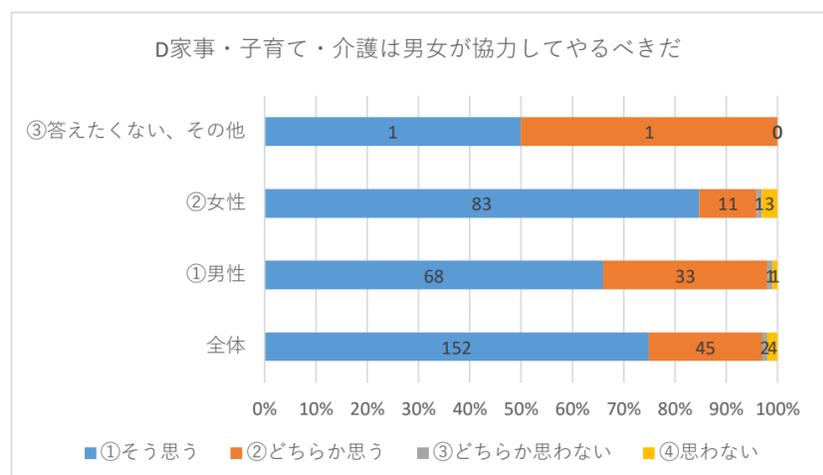
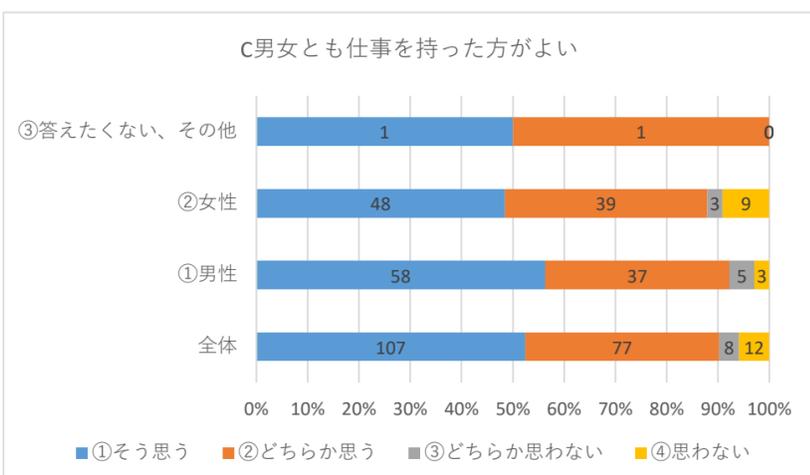
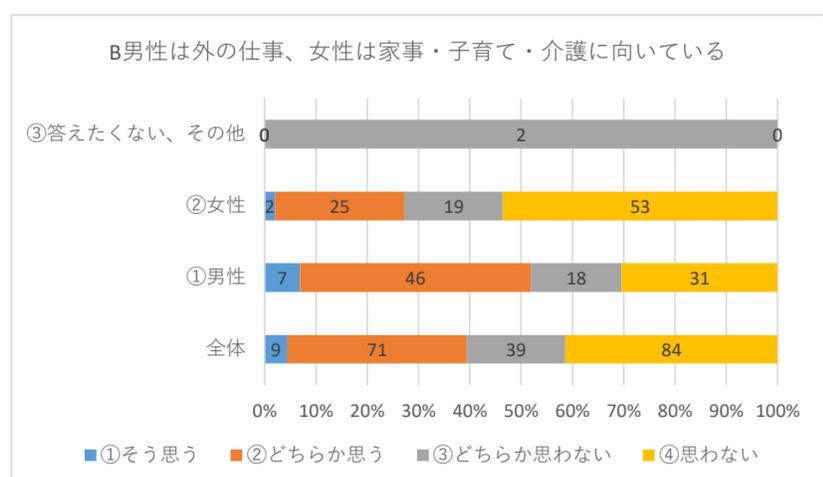
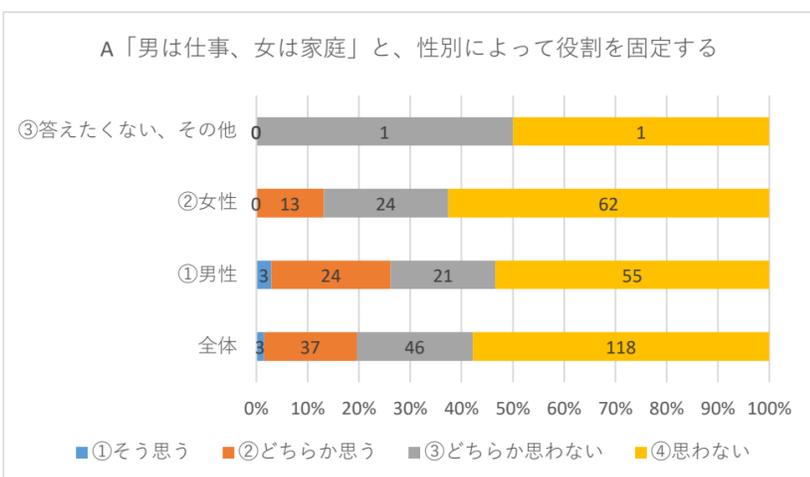
・「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が全体でおおよそ6割。男性は7割弱で女性より大きい。

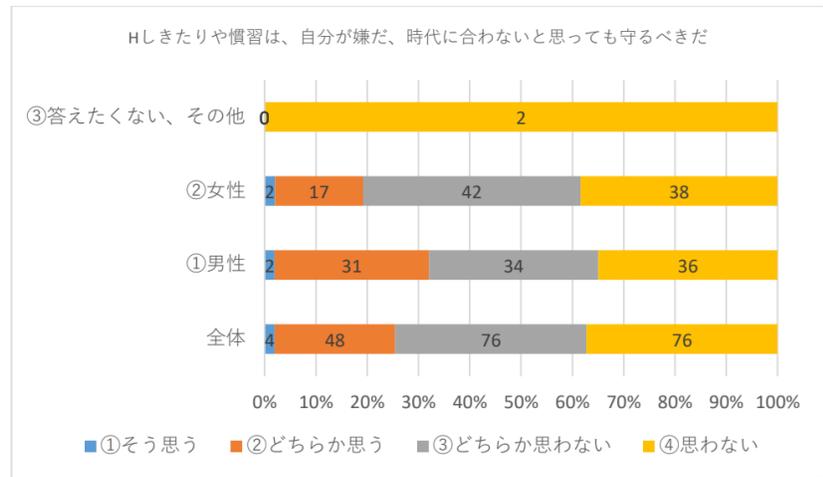
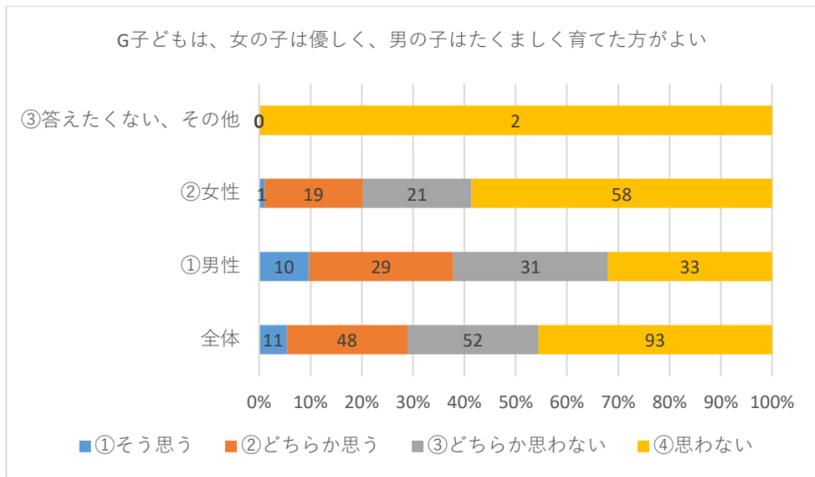
【G子どもは、女の子は優しく、男の子はたくましく育てた方がよい】

・「そう思わない」の女性の割合が6割弱に対し、男性の割合は3割強程度にとどまる。

【Hしきたりや慣習は、自分が嫌だ、時代に合わないと思っても守るべきだ】

・「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の割合がおおよそ7割。

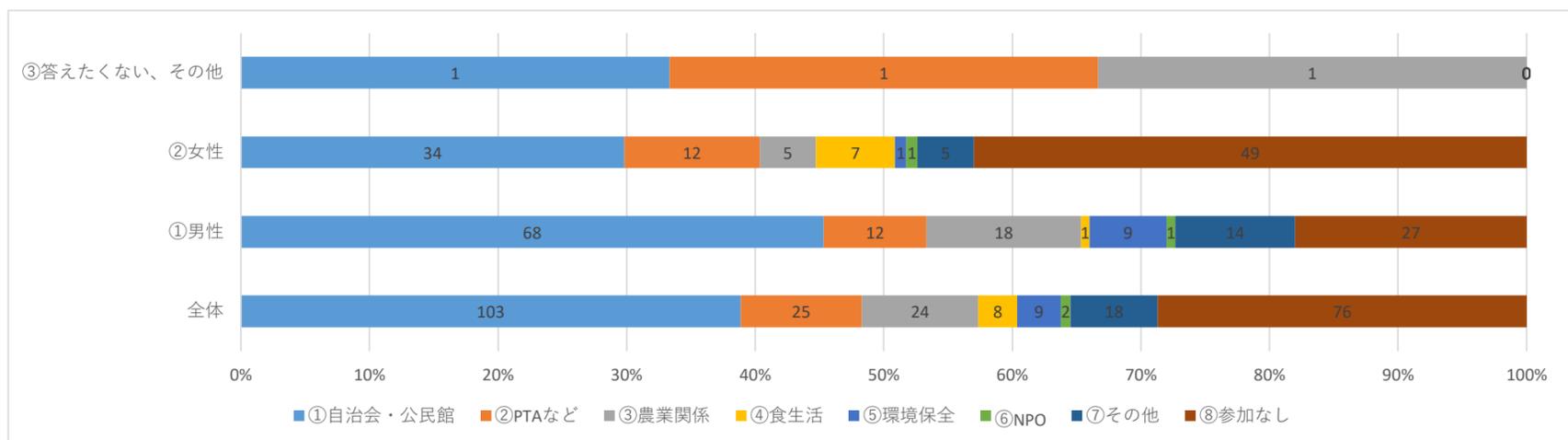




問9 あなたが、現在参加している活動についてお尋ねします。次の中から、あなたが参加している活動を全てあげてください。（該当する番号の左側に○を付けてください）

- ① 自治会・公民館など地域組織の活動
- ② PTAなどの子育てや教育に関する活動
- ③ 農業関係団体などの農業・農村振興に関する活動
- ④ 食生活改善などの保健・福祉に関する活動
- ⑤ 環境保全や自然保護などの環境に関する活動
- ⑥ NPOの活動
- ⑦ その他の活動（具体的に ）
- ⑧ 参加している活動はない

・「自治会・公民館など地域組織の活動」の割合が大きい。特に男性ではおよそ5割弱。

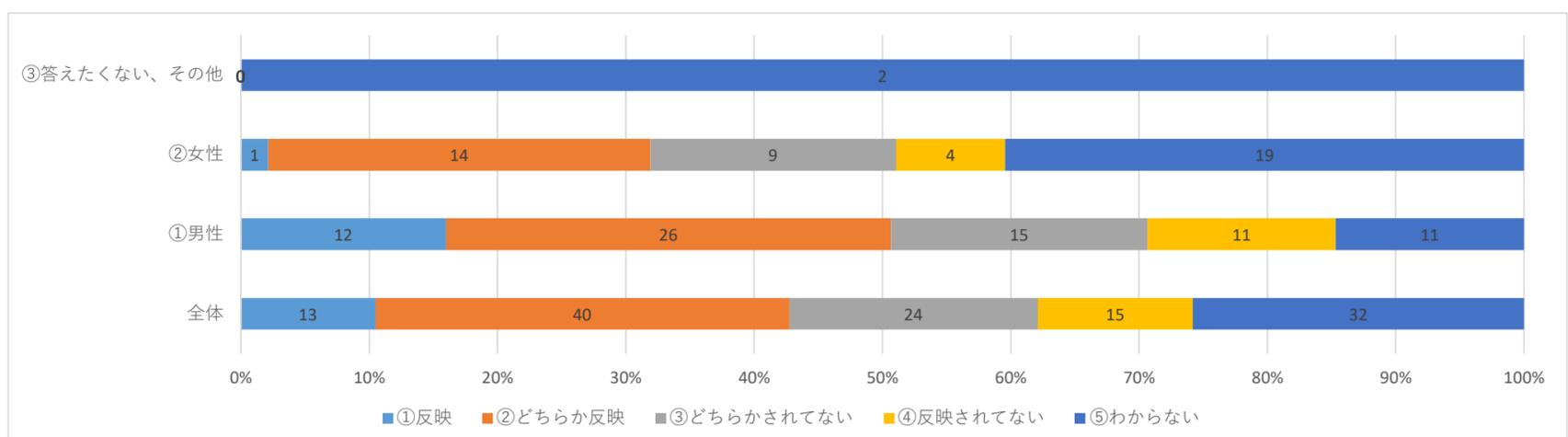


問10 （問9で①～⑦のいずれか、あるいは複数に○を付けた方にお尋ねします）

あなたが参加している団体の活動方針や政策に、ご自分の意見は反映されていると思いますか。

- ① 反映されている
- ② どちらかといえば反映されている
- ③ どちらかといえば反映されていない
- ④ 反映されていない
- ⑤ わからない

・男性の方が女性より、自分の意見が反映されていると感じている。女性の「わからない」の割合がおよそ4割を超える。

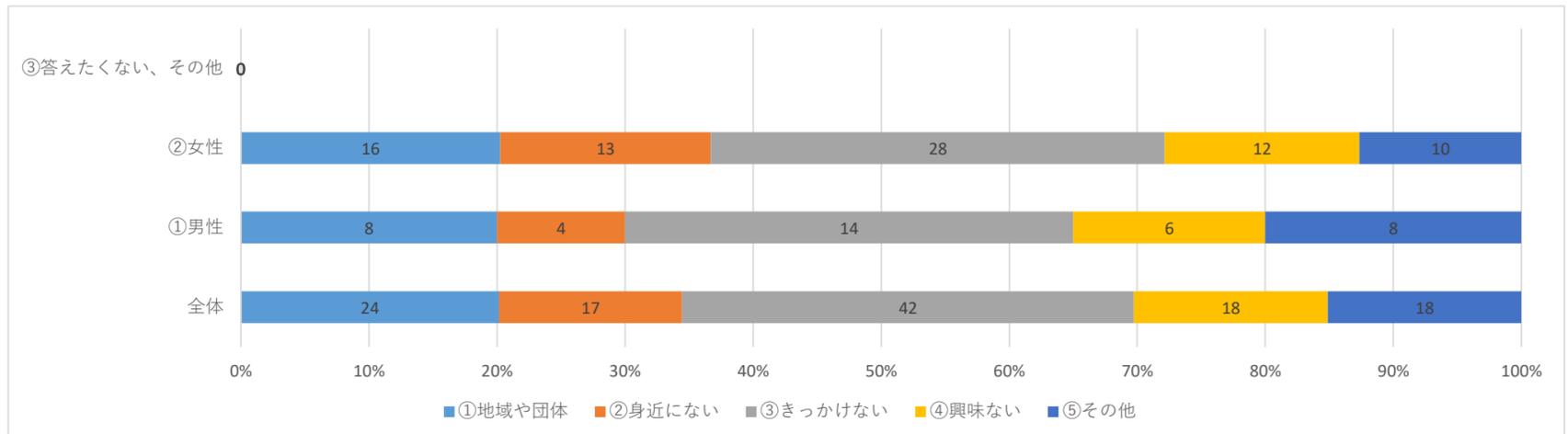


問11 (問9で「⑧ 参加している活動はない」とお答えの方にお尋ねします)

参加していない理由は何ですか。次の中から、2つまで選んでください。

- ① 地域や団体の活動に参加する時間がないから
- ② 参加したいと思う活動や団体が身近にないから
- ③ 参加するきっかけがないから
- ④ 興味がないから
- ⑤ その他(具体的に )

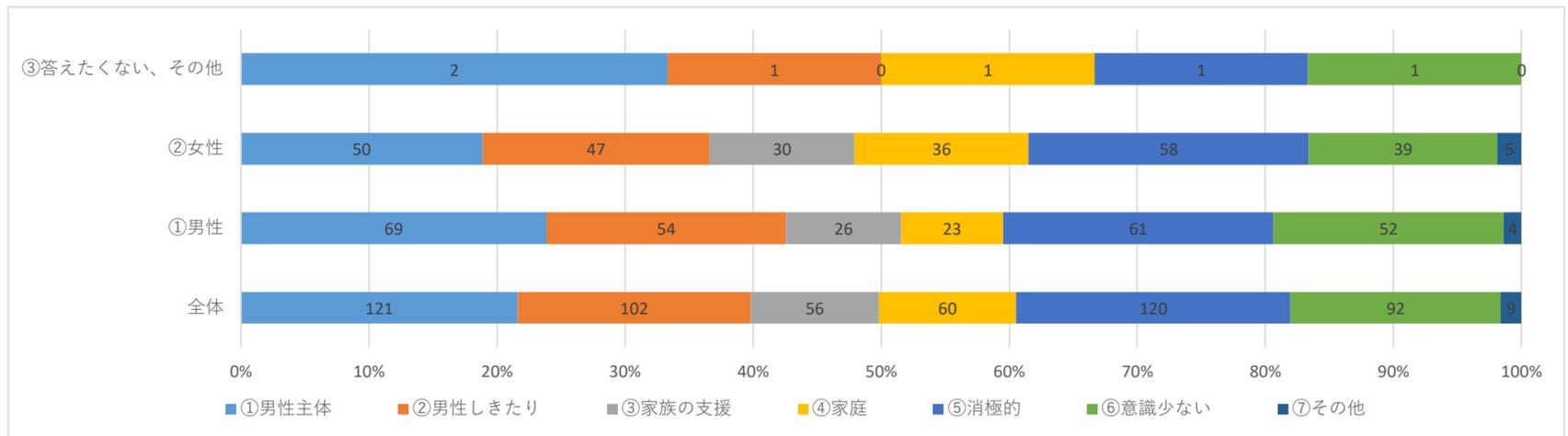
・「地域や団体の活動に参加する時間がないから」よりも、「参加するきっかけがないから」の方が多い。



問12 女性の社会参画が進みつつありますが、自治会の長、PTA会長などには、まだ、女性が少ないのが現実です。このような方針決定の過程に、女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。次の中から、あなたのお考えに近いものを3つまで選んでください。

- ① 役員決定をはじめとして男性主体の組織運営がされているから
- ② 自治会などの団体の代表者は、男性が担うことがしきたりや慣習になっているから
- ③ 家族の支援・協力が得られないから
- ④ 家庭・職場・地域における性別役割分担意識や性差別の意識があるから
- ⑤ 女性自身が責任ある役職に就くことに消極的であるから
- ⑥ 女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから
- ⑦ その他(具体的に )

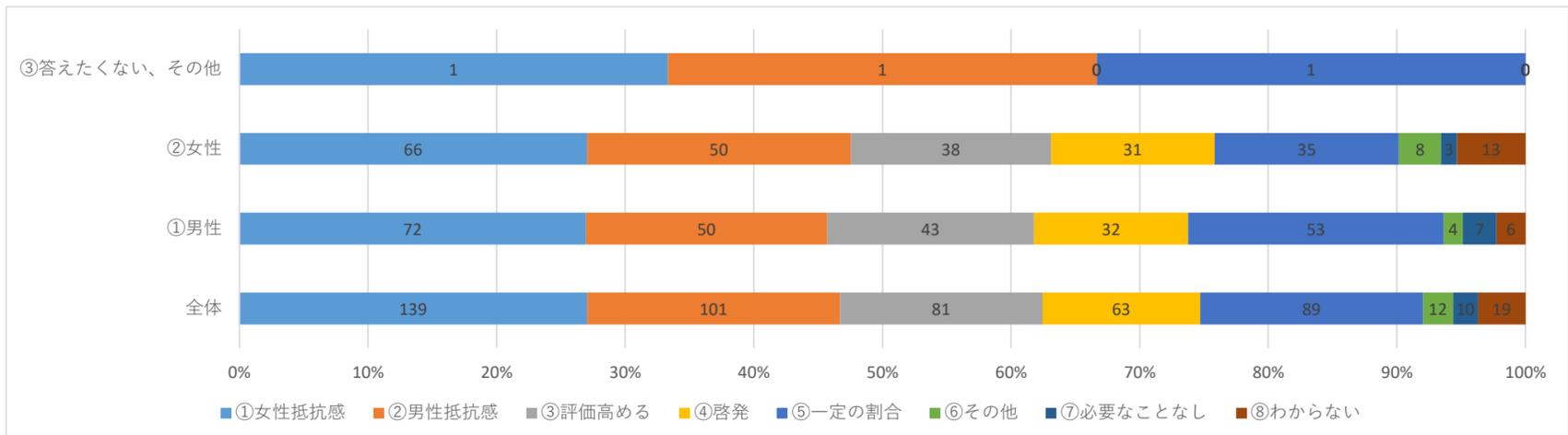
・「役員決定をはじめとして男性主体の組織運営がされているから」と「自治会などの団体の代表者は、男性が担うことがしきたりや慣習になっているから」を合わせると4割近い。「女性自身が責任ある役職に就くことに消極的であるから」も2番目に多い。



問13 あなたは、自治会長やPTA会長など、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から、あなたのお考えに近いものを3つまで選んでください。

- ① 女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと
- ② 女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと
- ③ 社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること
- ④ 女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと
- ⑤ 女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取り組みを進めること
- ⑥ その他（具体的に ）
- ⑦ 特に必要なことはない
- ⑧ わからない

・「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」が最も多い。「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」と合わせると5割弱。「女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取り組みを進めること」では、男性の方がそう考える人が女性より多い。



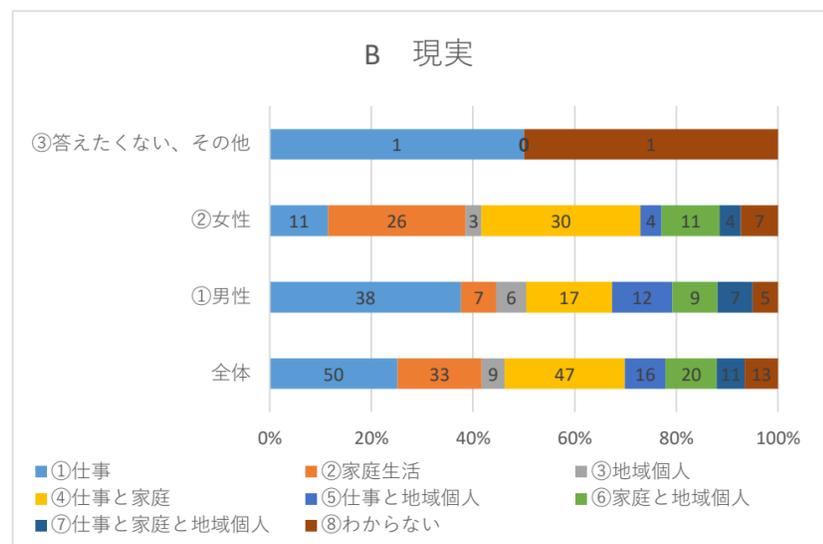
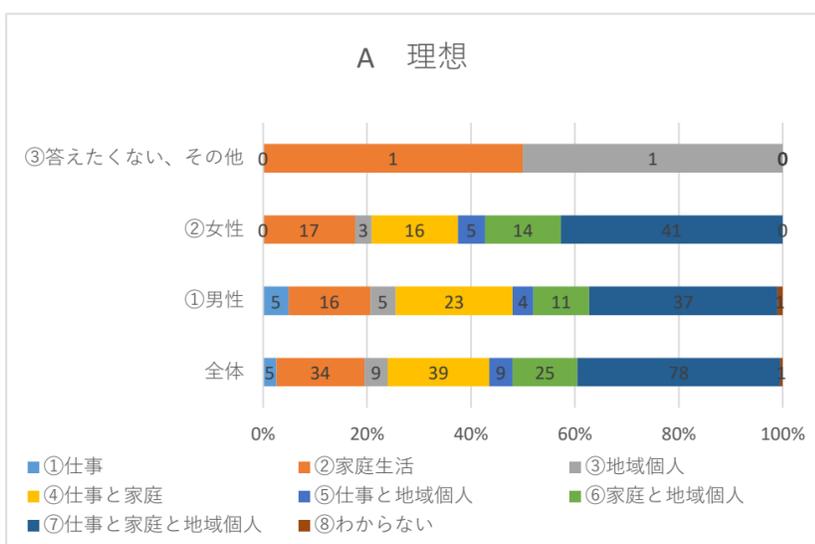
問14 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）、この3つの優先度について、お尋ねします。

次の中から、あなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものをA理想の欄に、同じく次の中から、あなたの現実（現状）の生活に最も近いものをB現実の欄に、該当する番号を選択してください。

【A理想】  B現実】について

- ① 「仕事」優先
- ② 「家庭生活」優先
- ③ 「地域・個人の生活」優先
- ④ 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- ⑤ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ⑥ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ⑦ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ⑧ わからない

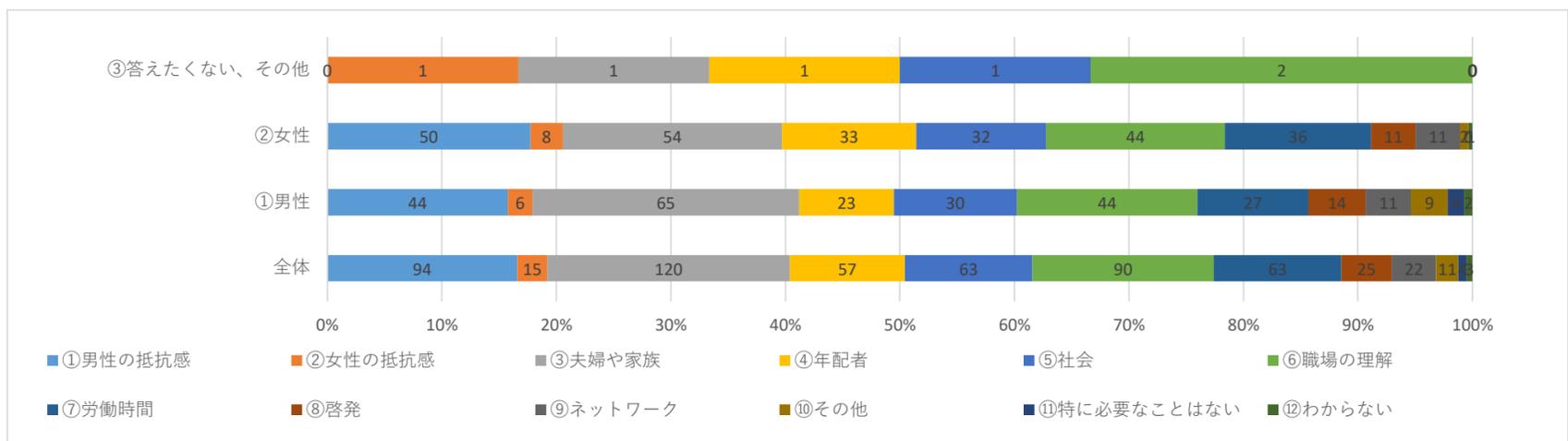
・理想は「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」が最も多いが、現実には男性では「仕事」優先が最も多く、女性では「仕事」と「家庭生活」をともに優先が最も多い。女性では「家庭生活」優先の割合が男性よりも大きい。



問15 あなたは、現在、女性が分担する機会が多い家事、子育て、介護等に男性が積極的に参画していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の中からあなたのお考えに近いものを3つまで選んでください。

- ① 男性が家事・育児などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- ② 男性が家事・育児などに参画することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- ③ 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- ④ 年配者や周りの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
- ⑤ 社会の中で男性が家事・育児などに参画することへの評価を高めること
- ⑥ 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
- ⑦ 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICT（情報通信技術）を利用した多様な働き方を普及することで、男性が仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- ⑧ 男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと
- ⑨ 男性が家事・育児などを行うための仲間（ネットワーク）作りを進めること
- ⑩ その他（具体的に ）
- ⑪ 特に必要なことはない
- ⑫ わからない

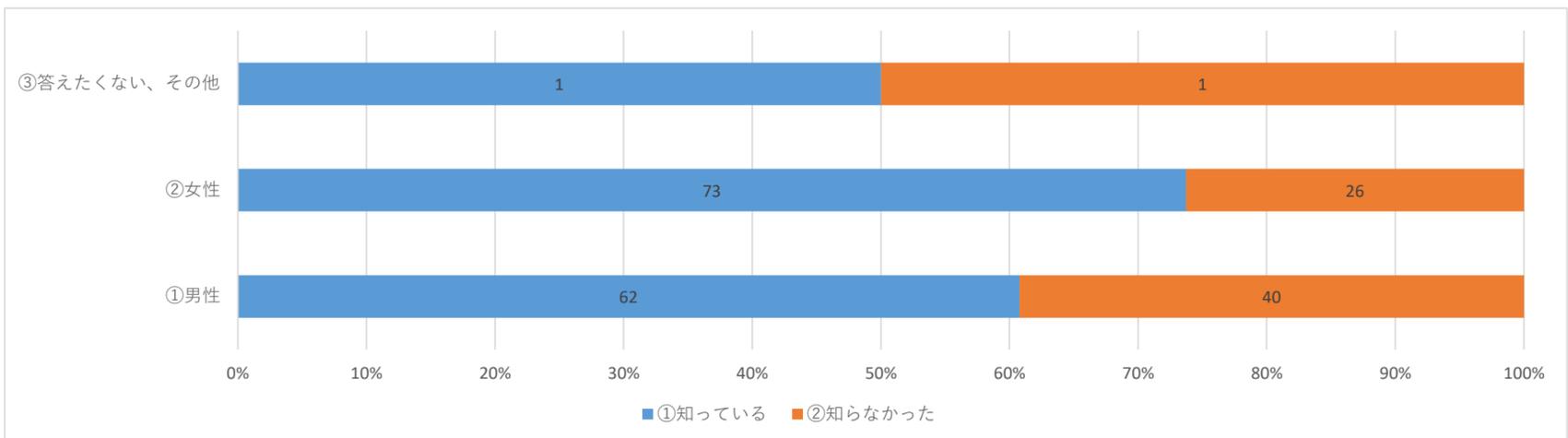
・「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が重要だと考える町民が多い。



問16 あなたは配偶者・パートナーなどからの暴力について、相談できる窓口（※）があることを、ご存知ですか。

- ① 知っている
- ② 知らなかった

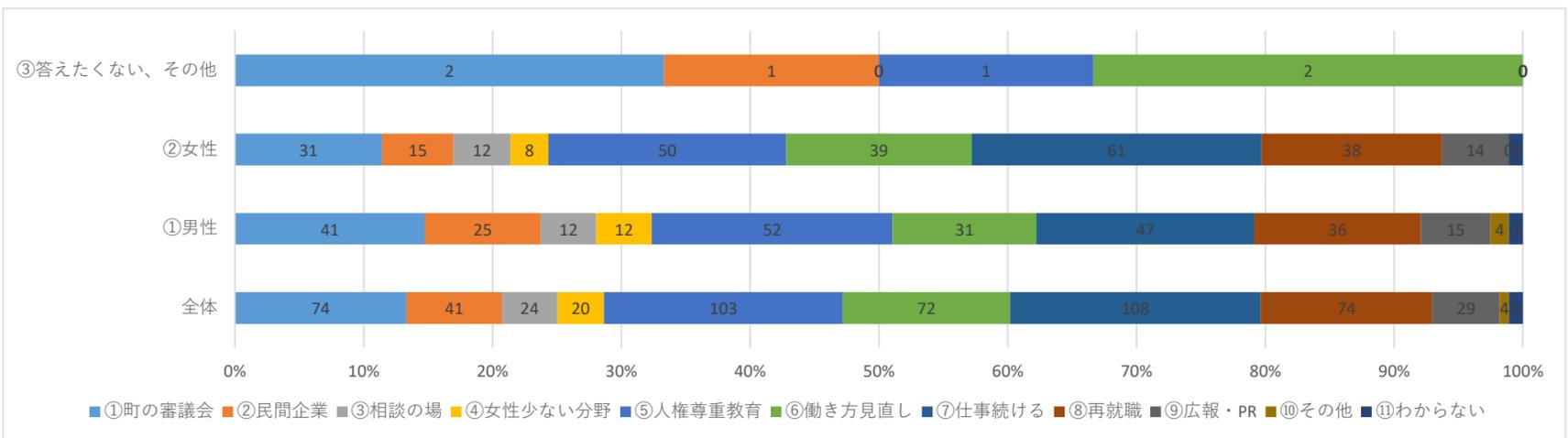
・女性の方が「知っている」が多い。逆に言うと3割～4割が知らないということなので、より一層周知を徹底する必要がある。



問17 「男女共同参画社会」とは、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会」です。「男女共同参画社会」を実現するために、町はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中から、あなたが特に重要だと思うことを3つまで選んでください。

- ① 町の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
- ② 民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むように支援する
- ③ 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する
- ④ 従来、女性が少なかった分野（研究者など）への女性の進出を支援する
- ⑤ 性別に関わらず、すべての人が互いに人権を尊重するよう教育の機会を充実する
- ⑥ 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める
- ⑦ 子育てや介護等の制約があっても誰もが仕事を続けられるよう支援する
- ⑧ 子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
- ⑨ すべて人が互いの人権を尊重することの重要性について広報・PRする
- ⑩ その他（具体的に )
- ⑪ わからない

- ・「性別に関わらず、すべての人が互いに人権を尊重するよう教育の機会を充実する」が多い。
- ・「子育てや介護等の制約があっても誰もが仕事を続けられるよう支援する」が多い。職場における理解と支援の充実を図る。
- ・どれか一つが突出して多いのではなくどれも平均的に力を入れていくべき。あらゆる手段を総合的にすべきところ。

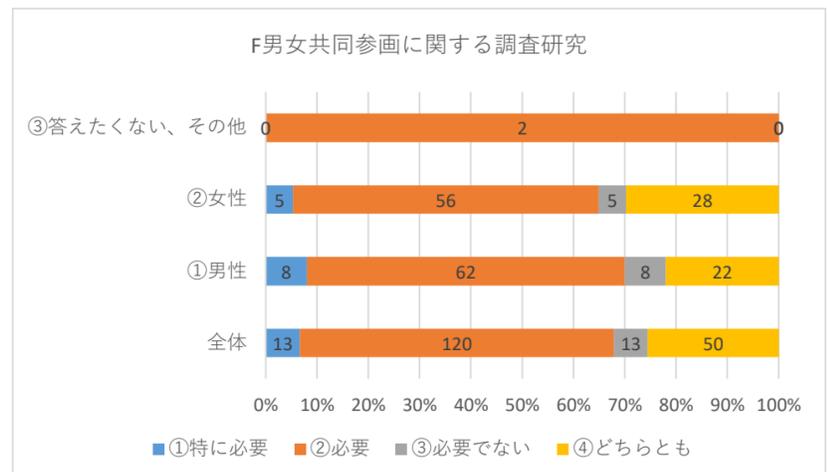
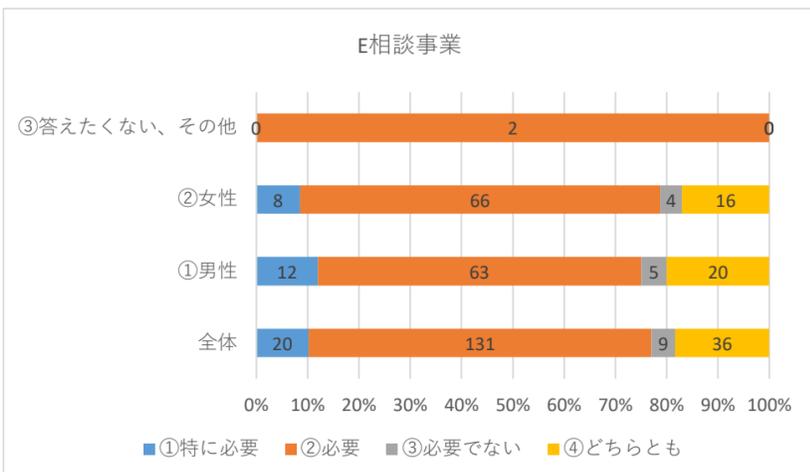
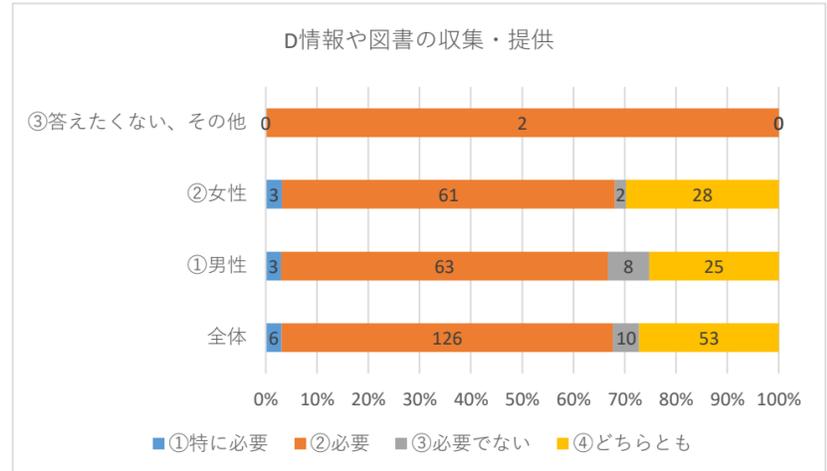
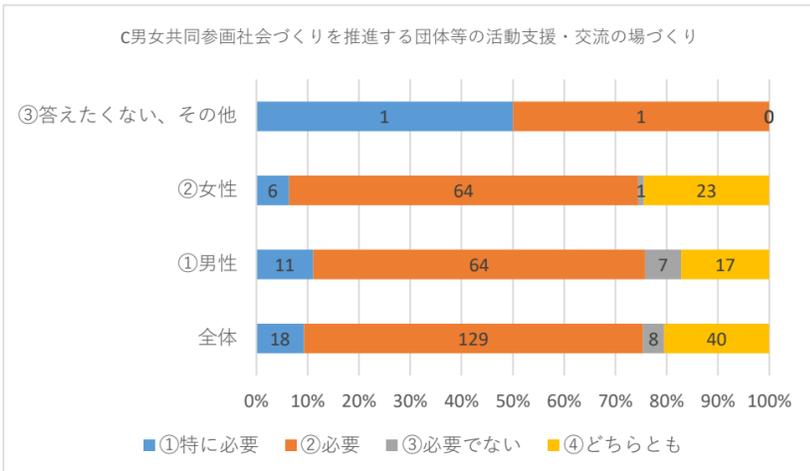
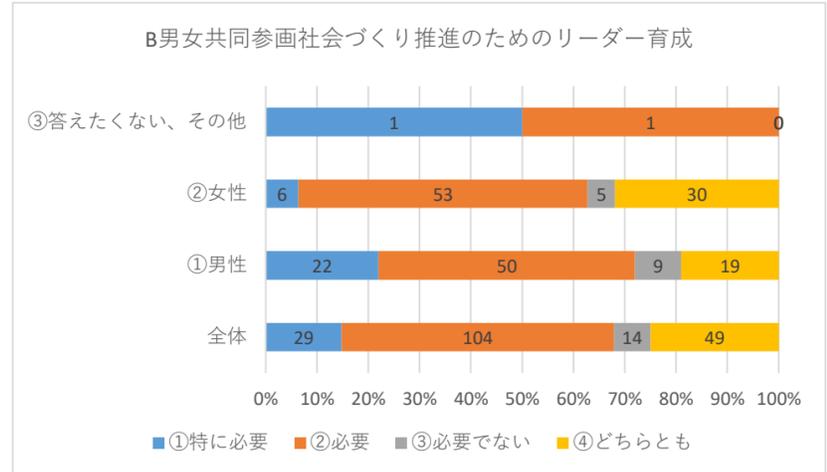
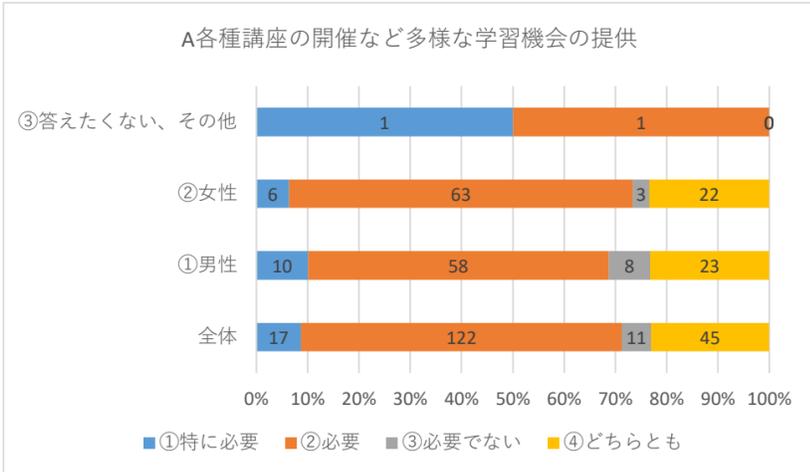


問18 あなたは、「男女共同参画社会づくり」のために、次にあげる実施すべき町の事業についてどう思いますか。A～Fそれぞれにつき、該当する番号に○を付けてください。

(各項目について)

- ① 特に必要である
- ② 必要である
- ③ 必要でない
- ④ どちらとも言えない

- ・「必要である」が多く、町に対し施策を求められている。
- ・継続しての取組みが必要。



問19 あなたは、防災対策において男女共同参画の視点からどのような取組が必要であると思いますか。あなたが特に必要だと思うことを3つまで選んでください。

- ① 防災会議や対策本部の女性委員を増やすなど防災計画策定に女性が参画すること
  - ② 女性の消防団員、消防署員、警察官や県・市町村の防災担当職員が増えること
  - ③ 災害時の救援医療体制（診察・治療体制、妊産婦への支援体制など）
  - ④ 避難所の設備（男女別トイレ、更衣室、物干し場、防犯対策など）
  - ⑤ 避難所運営責任者に男女がともに配置されること
  - ⑥ 必要な備蓄品の把握や被災者に支給する際の配慮
  - ⑦ 被災者に対する相談体制（女性相談、男性相談）
  - ⑧ 仮設住宅設置や生活再建支援における配慮（設計への意見反映や乳幼児の一時預かりなど）
- ・どれか一つのみが有効ではなく、総合的に取組みをすることが重要。

